

工藤さんと私
魅力的、真面目な人
下書き

a
グループ p 石岩 (せきがん)

1、 工藤さんの印象

工藤さんはとても魅力のあり、真面目な人だと思います。

工藤さんは体育が好きで、今弓道をやっているそうです。私も、弓道に興味があるからそれについて、工藤さんに聞いてもらいました。アニメやドラマの中に弓道をやっている主人公がかっこいいイメージにきかっけにそれをやっている工藤さんも魅力的だと思うようになりました。弓道について、工藤さんから親切に教えてもらいました。

また、うちのグループは散歩のとき、パン屋へ行きました。日本の食文化について話し合いました。外国人にとって、食べにくい刺身やお寿司など生のもの、日本人にとって、犬肉やウサギ肉など食べられないことなど食文化の独特性も楽しく耳にしました。最初は驚くほど自分の国では絶対食べられないものが外国で日常茶飯事として食べられます。さまざまな多文化を感じながら自分の国の文化の唯一性もしみじみと感じられました。そういう食文化の独特性は工藤さんの考えも聞かれました。やはり、文化はどちらのほう正しいかどうかというような判断基準がないと思います。そんな話をしながら楽しく過ごしました。

2、特に聞きたいテーマ：弓道

自分は最初に日本語を勉強したとき、「秒速5センチメートル」という最高のアニメを見ました。かっこいい主人公や悲しいストーリーにとっても、感動しました。しかも、主人公は弓道をやっています。それをきっかけに、弓道はともにかっこいいイメージを持ちました。それで、今回工藤さん弓道が好きということを知って、関心を持ちました。私自身が弓道について、実践したこともあんまりないですが、弓道やる前に、絶対心が落ち着けなければならないということが十分分かります。弓道について、工藤さん紹介したら、彼は弓道に対する熱心や自信が強く感じられました。

3、話し合いの結果

六月六日の話し合い

教室で和やかな雰囲気です話し合いました。工藤さんにとっては弓道はどのような存在なのかという話をしました。工藤さんは弓道をとっても大事にして、話していた時、弓道をやっていることで工藤さんの誇りが感じられました。その時、弓道はどんな影響を工藤さんに与えるのか聞きたかったです。工藤さんも、子供のころ映画の中に、武士が刀を抜くシーンを見て、かっこいいと思うから、武道を選んだそうです。最初に、剣道をやりましたが、いろいろな理由で剣道大会もでることでできず、最後諦めました。高校時代、悔しい思いをしたくないと思いながら改めて、弓道をやりはじめたそうです。今回、剣道と違って、絶対諦めずに、最後まで頑張ろうという強い決心をしました。

六月二十日の話し合い

教室で少し暑い天気の中話し合いました。弓道について、具体的なやり方を聞きました。毎回、弓道を話すと工藤さんはとても盛り上げているそうです。その時、工藤さんは弓道から何か、きっといい勉強になるのではないかと思います。工藤さんの経験では、まず強い心で、冷静に自分の体をコントロール

する必要がありますということです。弓道で、「礼儀射儀」という教訓があって、弓道をする前に、特に心が落ち着いていない時、これを思い出すと、だんだん冷静になったそうです。また、チームワークも大事だということが分かりました。弓道大会で、団体試合もあって、「いいながれになる」ということをみんな作るのも重要です。

4、まとめ

工藤さんにとっては、弓道は大事な存在で、弓道をする前に、必ず、自分の心を落ち着けなければならないし、自分の世界もその一瞬で、全部弓道に集中してしまいます。弓道はある程度で、ストレス解消したり、気分転換したりするためにいい方法かもしれません。弓道をするために、集中力を必要だということは勉強にも役に立つと思います。たくさんの中で、勉強に集中できない場合、弓道を一所懸命やっている姿を考えると勉強も弓道と同じなのではないか、集中しなくてはならないと思います。もはや、弓道は単にスポーツでなく、もう日常の一部になったのではないかと思います。

その集中する一瞬で、まるでこの世界と全く関係なくなって、自分の弓道世界だけを頭に映しています。次の瞬間で、ものすごく速いスピードで矢を射る姿はとてがかっこいいと思います。そんなかっこいい弓道をしている工藤さんのことを聞いて、工藤さんはとても魅力的で、真面目な人だと思うようになりました。

私は弓道を一度もやったことがないですが、工藤さんの話を聞いて、やってみたいと思います。なかなか心が落ち着けない、日常のことで、イライラでどうしようもないとき、弓道をやれば、礼儀射儀を思い出すと自分もなんとか落ち着くことができると思います。これを考えてみると、弓道はなかなか面白いと思います。弓道は心を鍛えられます。常に、心を冷静にして、いつも正しい射を求めて矢を射る、そんな気持ちでないといけないのです。自分の実力以上に自分を見せたいとか、ここで良い所を見せようとかの人間の見栄とか、欲望とか、と言う心の作用が、中るべきものを中らなくしてしまうのです。例えば、狙いを変えてでも的中をしようとしたという自分の不純な心と闘い、正しく射かなくても中ってしまったのを、周囲の人は褒めてくれても、自分は正しく射れなかった事を知っているから、そんなお世辞を言ってもらってもうれしくもません。

工藤さんにとっては弓道では常に正しい事を求めて自分と闘っています。それが弓道の最大の目標であり、弓道の大変大切な考え方なのです。弓道の意味工藤さんにとってはそういう存在だと分かりました。

5、授業を終えて

5.1 文化、コミュニケーションとは何か

私たちは自分と異質の文化に触れて、それを評価するとき、どうしても自分中心的になりがちです。その人にはその人の、その家庭にはその家庭の、その国はその国の独特の習慣と文化があり、生まれたときからそれに馴染んでいます。それなのに、その習慣、文化が自分のものと異なるとき、自分の標準にし、評価してしまいます。このような例は誰でも一度や二度は経験しているのではないのでしょうか。こういう評価がカルチャーショックの原因になります。しがしながら、異文化と接触することが意味があります。それに、カルチャーショックを防ぐために、異文化に触れたとき、自分と同じように相手も大切している

習慣や文化があることに気が付けば、ショックもかなりの程度で抑えられると思います。今回の授業を通じて、相手の立場からことを考えるのは大事だということが分かりました。コミュニケーションというのは自分は相手と同じ立場に立って、相手大事している文化や習慣など尊重しながら自分の文化を振り替えて、発展する過程だと思います。

5.2 授業について

難しかった点：インタビューなど相手と話し合うのは簡単ですが、その話した資料をどうやって文字化にするかということが難しいことだと思います。いろいろと考えましたが、実際に書くときはどのように書いたらいいのか悩んでしまいました。

よかった点：この授業のおかげで、相手とうまく交流する方法を深く理解しました。それに、日本人の友達ができ、とてもうれしいと思います。

改善してほしい点：毎回、レポートを書く前に、以前の授業の中に使ったいいレポート例文として配ったほうが良いと思います。そのレポートを学んで、いろいろ勉強になると思います。